

各測定所における環境試料中の核種分析調査結果 (環境放射線等モニタリング調査)

大気浮遊じん

放射化学分析

(単位:mBq/m³)

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和2年4月 - 令和3年3月		平成29年4月 - 令和2年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND	ND	ND	ND - 0.0045	ND	ND - 0.0026
竜飛岬	ND - 0.013	ND - 0.0016	ND	ND - 0.0020	ND	ND
佐渡関岬	ND	ND - 0.0012	ND	ND - 0.0014	ND	ND
越前岬	ND	ND - 0.0010	ND	ND - 0.0015	ND	ND
隠岐	ND	ND	ND	ND - 0.0026	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND	ND	ND - 0.0015	ND	ND
檮原	ND	ND	ND	ND - 0.0039	ND	ND - 0.0038
対馬	ND	ND	ND	ND - 0.0013	ND	ND
五島	ND	ND	ND	ND	ND	ND - 0.0013
辺戸岬	ND	ND - 0.0011	ND	ND	ND	ND - 0.0015

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として差し引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

大気浮遊じん

(単位: mBq/m³)

採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ 線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	R2/4/2-7/1	90920251	13200	(< 0.009)	(< 0.005)	1.8 ± 0.16	(<0.002)	(<0.002)
	R2/7/1-10/4	90920251	14800	(< 0.007)	(< 0.005)	1.9 ± 0.07	(<0.002)	(<0.001)
	R2/10/4-12/25	90920251	12100	(< 0.02)	(< 0.006)	2.6 ± 0.42	(<0.002)	(<0.002)
	R2/12/25-R3/3/29	01012251	13900	(< 0.009)	(< 0.006)	3.3 ± 0.17	(<0.002)	(<0.002)
竜飛岬	R2/3/27-6/30	90920251	14200	(< 0.009)	(< 0.005)	2.0 ± 0.16	(<0.002)	(<0.001)
	R2/6/30-9/30	90920251	13500	(< 0.008)	(< 0.006)	1.8 ± 0.08	(<0.002)	(<0.002)
	R2/9/30-12/28	90920251	12800	(< 0.009)	(< 0.006)	3.5 ± 0.39	0.013 ± 0.0011	0.0016 ± 0.00041
	R2/12/28-R3/3/29	01012251	13600	(< 0.009)	(< 0.006)	4.0 ± 0.17	(<0.002)	(<0.002)
佐渡関岬※	R2/3/31-7/1	90920251	14100	(< 0.008)	(< 0.005)	2.7 ± 0.17	(<0.002)	(<0.001)
	R2/7/1-9/30	90920251	14200	(< 0.009)	(< 0.005)	1.9 ± 0.08	(<0.002)	0.0012 ± 0.00034
	R2/9/30-12/28	90920251	13700	(< 0.008)	(< 0.006)	3.2 ± 0.38	(<0.002)	(<0.002)
	R2/12/28-R3/1/7	01012251	1500	(< 0.07)	(< 0.04)	10 ± 2.3	(<0.02)	(<0.01)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の⁹⁰Sr及び¹³⁷Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる⁹⁰Sr及び¹³⁷Csをブランク値として差し引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

※ 佐渡関岬測定所における第4四半期は、暴風雪の影響により停電が発生したため(令和3年1月7日)、採取期間が短い。

大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ 線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
越前岬	R2/3/19-6/29	90920251	16100	(< 0.007)	(< 0.005)	2.7 ± 0.15	(<0.002)	(<0.0009)
	R2/6/29-9/18	90920251	12300	(< 0.01)	(< 0.006)	1.5 ± 0.09	(<0.002)	(<0.002)
	R2/9/18-12/21	90920251	15000	(< 0.008)	(< 0.005)	2.7 ± 0.40	(<0.002)	(<0.001)
	R2/12/21-R3/3/25	01012251	14900	(< 0.008)	(< 0.006)	4.0 ± 0.20	(<0.002)	0.0010 ± 0.00034
隠岐	R2/3/19-6/26	90920251	13400	(< 0.01)	(< 0.006)	2.6 ± 0.18	(<0.002)	(<0.001)
	R2/6/26-9/28	90920251	13200	(< 0.009)	(< 0.006)	1.7 ± 0.08	(<0.002)	(<0.002)
	R2/9/28-12/28	90920251	13600	(< 0.009)	(< 0.006)	4.2 ± 0.41	(<0.002)	(<0.002)
	R2/12/28-R3/3/26	01012251	13700	(< 0.009)	(< 0.006)	4.8 ± 0.21	(<0.002)	(<0.002)
蟠竜湖	R2/3/23-6/25	90920251	13700	(< 0.009)	(< 0.006)	2.5 ± 0.19	(<0.002)	(<0.002)
	R2/6/25-9/24	90920251	13000	(< 0.009)	(< 0.006)	1.8 ± 0.09	(<0.002)	(<0.002)
	R2/9/24-12/21	90920251	13100	(< 0.01)	(< 0.006)	4.7 ± 0.48	(<0.002)	(<0.002)
	R2/12/21-R3/3/23	01012251	13500	(< 0.01)	(< 0.006)	4.6 ± 0.20	(<0.002)	(<0.002)

大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot.No)	積算流量 (m ³)	γ 線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
檜原	R2/3/16-6/22	90920251	14900	(< 0.009)	(< 0.005)	4.0 ± 0.21	(<0.002)	(<0.001)
	R2/6/22-9/14	90920251	11600	(< 0.009)	(< 0.007)	1.4 ± 0.10	(<0.002)	(<0.002)
	R2/9/14-12/7	90920251	12600	(< 0.01)	(< 0.006)	4.8 ± 0.59	(<0.002)	(<0.002)
	R2/12/7-R3/3/15	01012251	14600	(< 0.008)	(< 0.006)	4.1 ± 0.19	(<0.002)	(<0.002)
対馬	R2/3/12-6/8	90920251	13600	(< 0.009)	(< 0.005)	3.5 ± 0.25	(<0.002)	(<0.001)
	R2/6/8-9/9	90920251	13700	(< 0.009)	(< 0.006)	1.6 ± 0.09	(<0.002)	(<0.001)
	R2/9/9-12/22	90920251	15900	(< 0.008)	(< 0.006)	4.2 ± 0.39	(<0.002)	(<0.0009)
	R2/12/22-R3/3/19	01012251	13400	(< 0.008)	(< 0.006)	4.7 ± 0.21	(<0.002)	(<0.002)
五島※	R2/3/10-6/8	90920251	13200	(< 0.01)	(< 0.006)	4.0 ± 0.26	(<0.002)	(<0.001)
	R2/6/8-9/2	90920251	13000	(< 0.009)	(< 0.006)	1.7 ± 0.12	(<0.002)	(<0.002)
	-	-	-	-	-	-	-	-
	R3/3/8-3/26	01012251	2400	(< 0.03)	(< 0.02)	9.0 ± 0.56	(<0.01)	(<0.006)

※ 五島測定所において、台風9号の影響により停電が発生し(令和2年9月～令和3年3月)、第3四半期分の試料が採取できなかった。また、第4四半期分についても採取期間が短い。

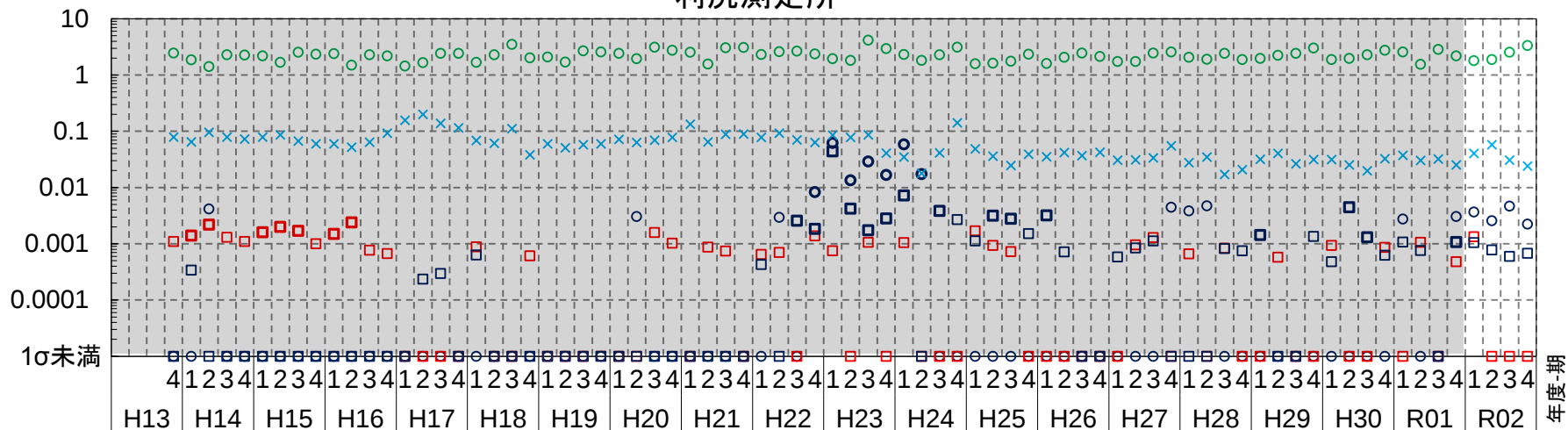
大気浮遊じん

(単位:mBq/m³)

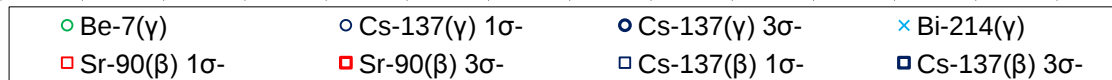
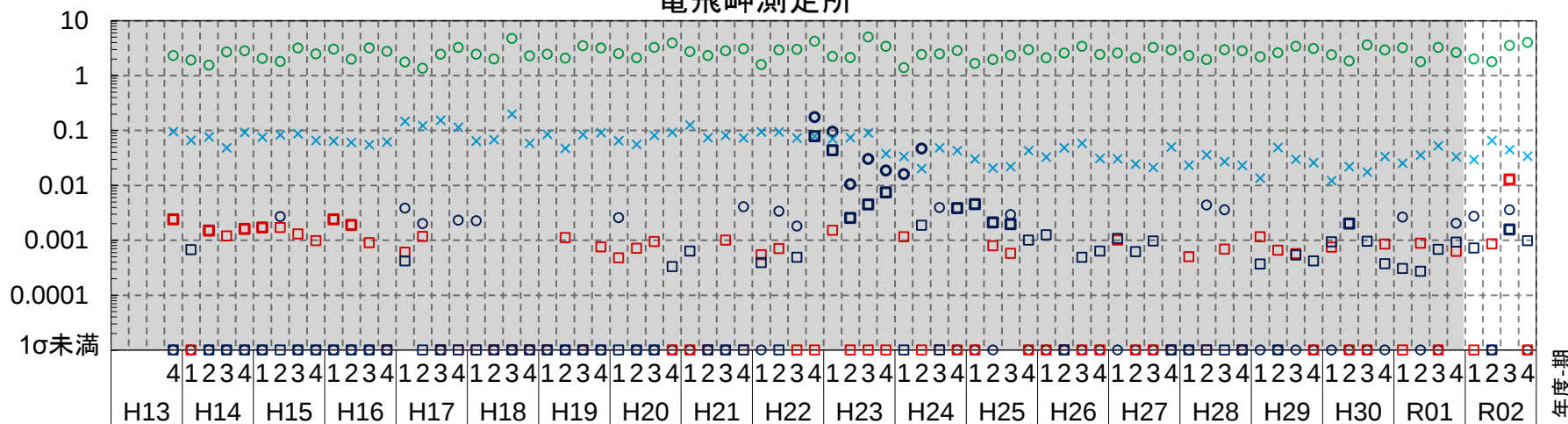
採取地点	試料採取日	ろ紙 (Lot. No)	積算流量 (m ³)	γ 線スペクトロメリー			放射化学分析	
				¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
辺戸岬	R2/3/2-6/22	90920251	17200	(< 0.007)	(< 0.005)	2.7 ± 0.17	(<0.002)	(<0.0008)
	R2/6/22-9/14	90920251	12500	(< 0.009)	(< 0.006)	1.3 ± 0.10	(<0.002)	(<0.002)
	R2/9/14-12/7	90920251	13000	(< 0.01)	(< 0.006)	4.7 ± 0.58	(<0.002)	0.0011 ± 0.00036
	R2/12/8-R3/3/1	01012251	12300	(< 0.01)	(< 0.007)	4.2 ± 0.23	(<0.002)	(<0.002)
ろ紙 Lot. 90920251			-	(< 0.2) Bq/試料	(< 0.09) Bq/試料	-	0.039 ± 0.0073 Bq/試料	0.019 ± 0.0047 Bq/試料
ろ紙 Lot. 01012251			-	(< 0.1) Bq/試料	0.13 ± 0.025 Bq/試料	-	(< 0.02) Bq/試料	0.026 ± 0.0048 Bq/試料

大気浮遊じん

利尻測定所

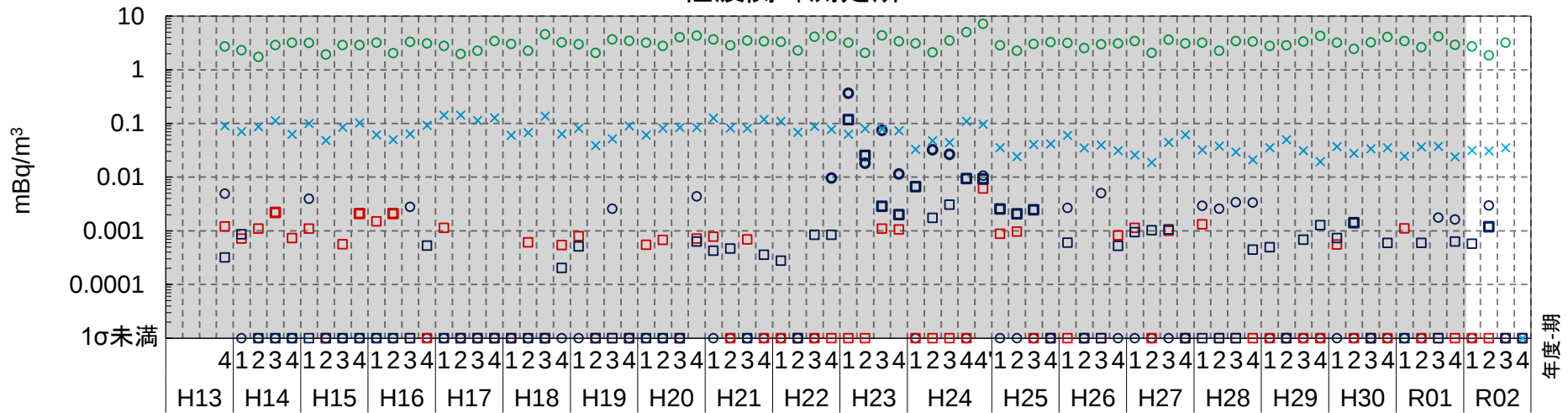


竜飛岬測定所

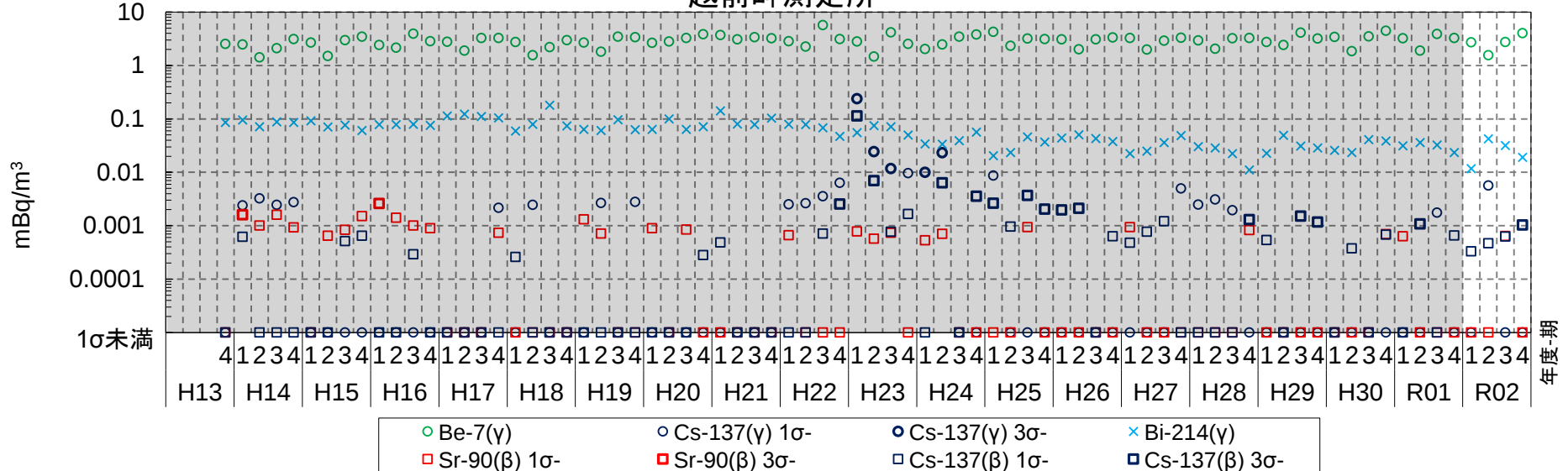


大気浮遊じん

佐渡関岬測定所

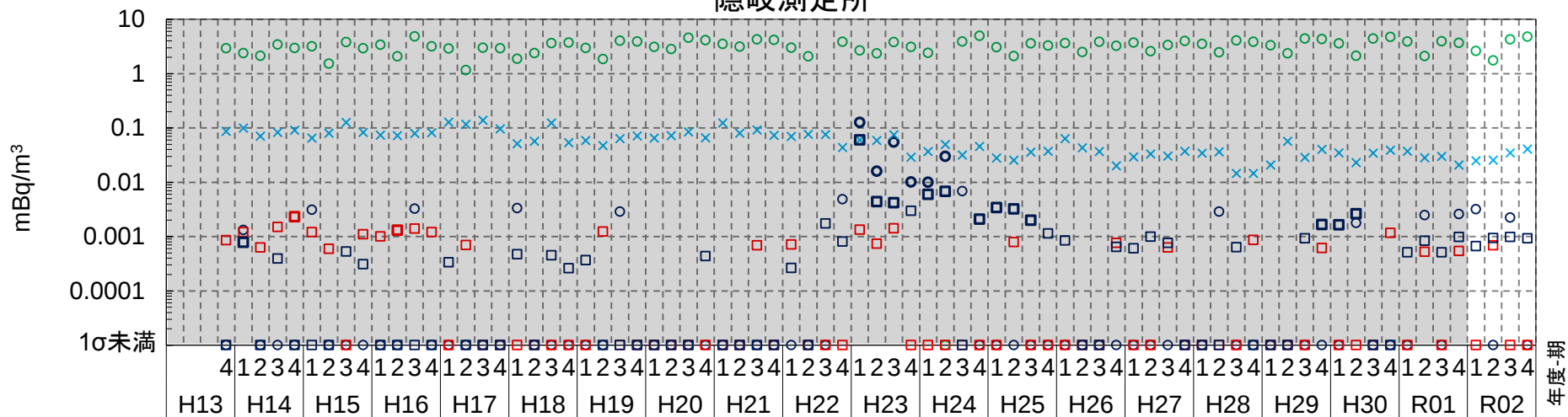


越前岬測定所

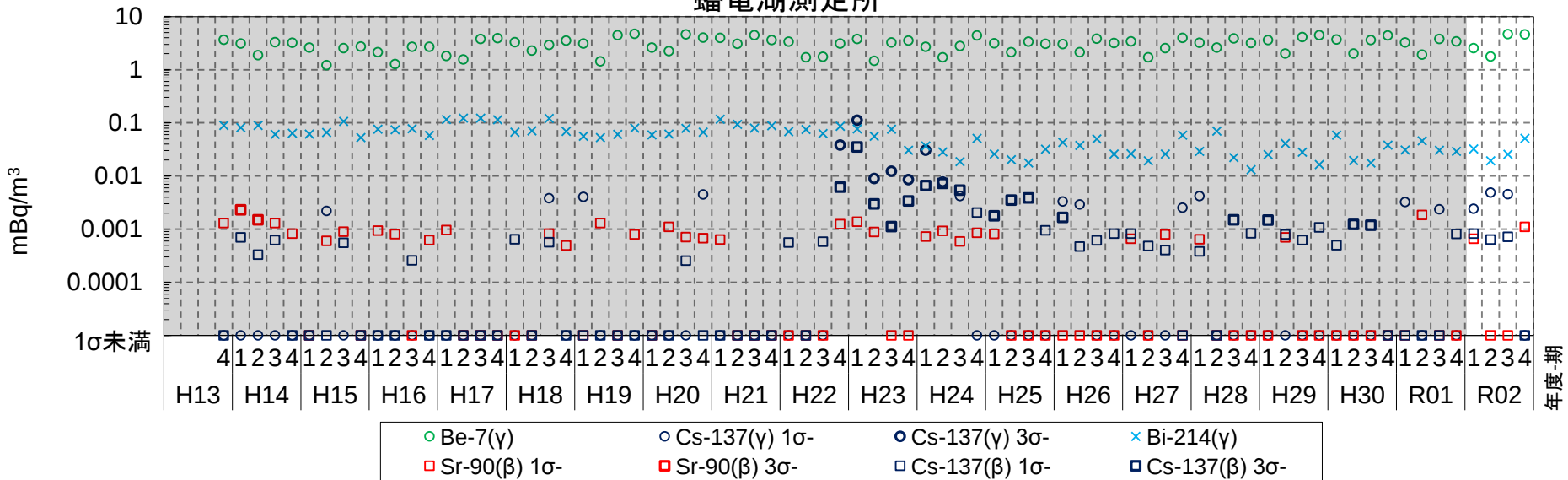


大気浮遊じん

隠岐測定所

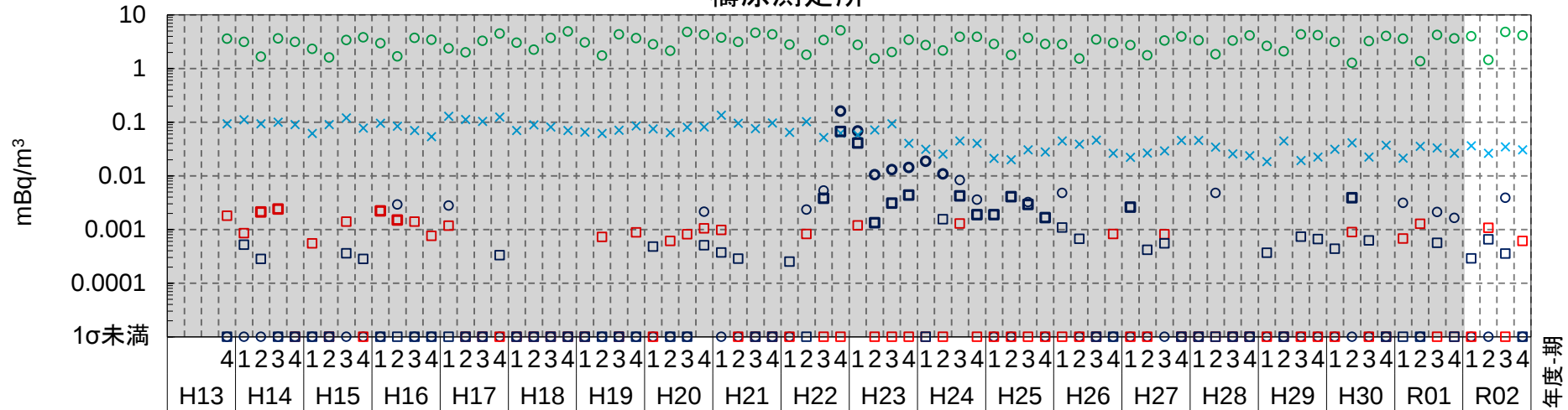


蟠竜湖測定所

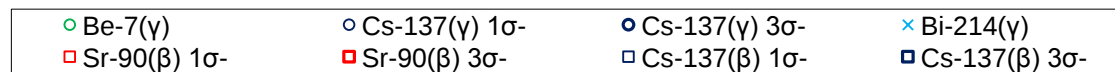
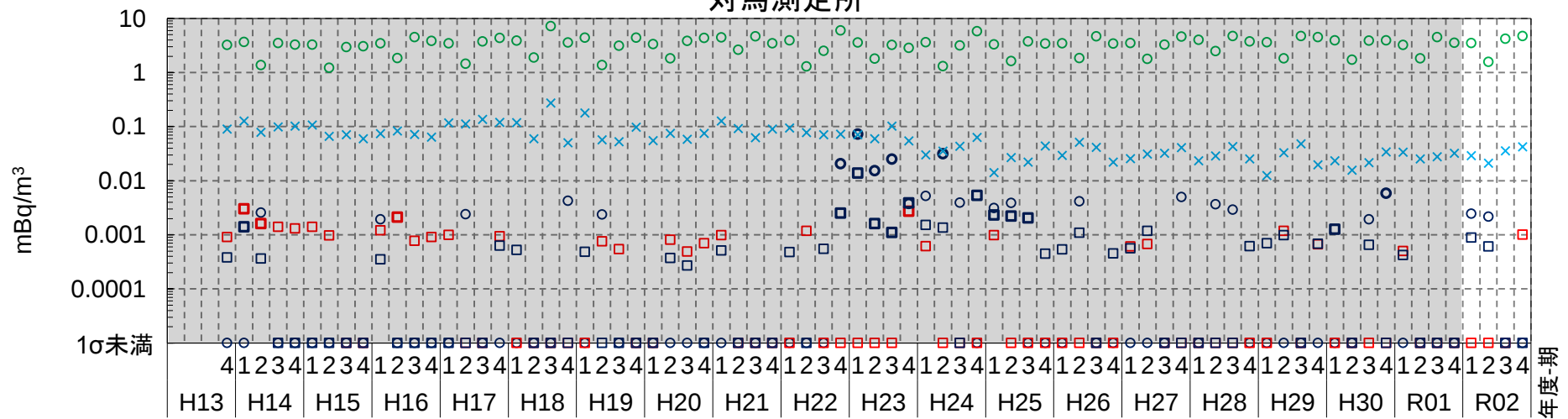


大気浮遊じん

橿原測定所

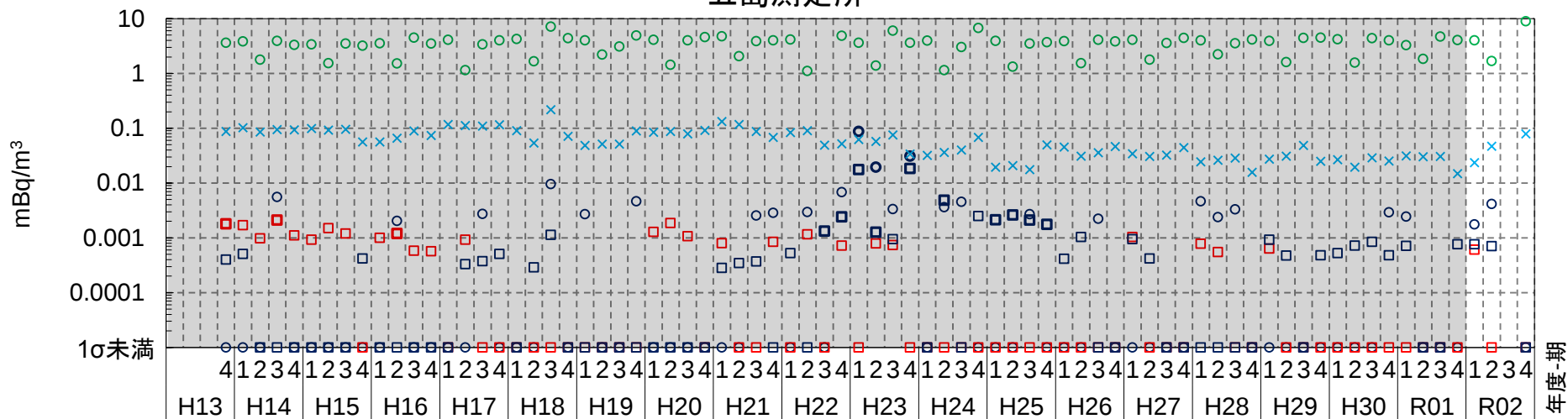


対馬測定所

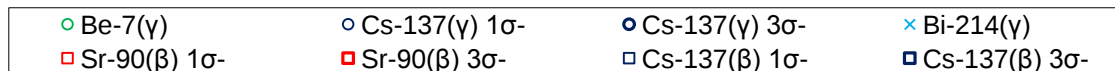
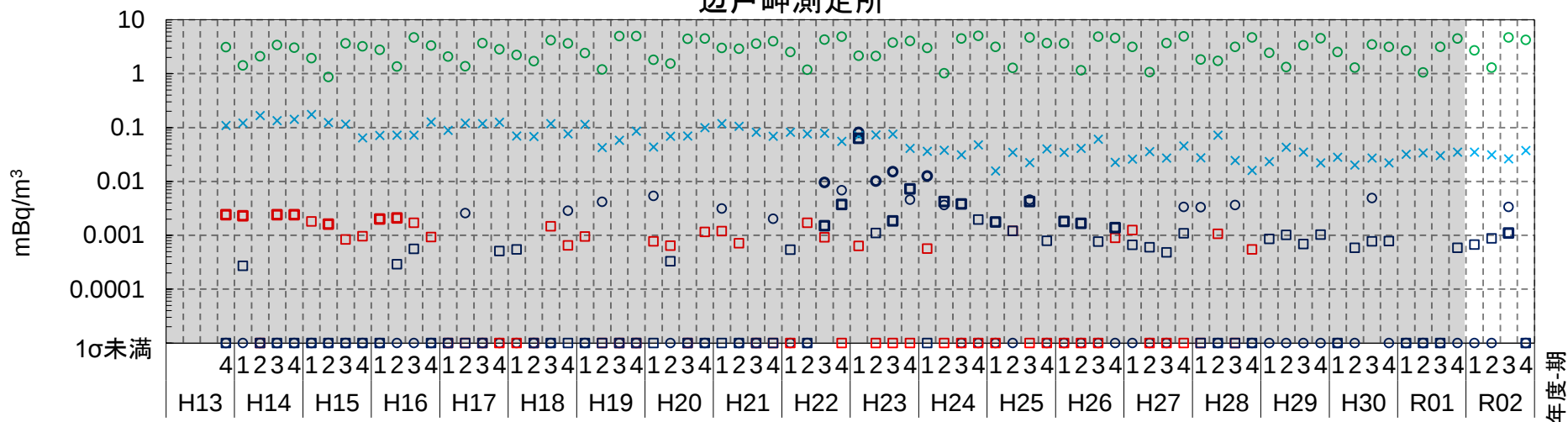


大気浮遊じん

五島測定所



辺戸岬測定所



大気降下物

放射化学分析

(単位: MBq/km²・3ヶ月)

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和2年4月 - 令和3年3月		平成29年4月 - 令和2年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	ND - 0.067	ND - 0.10	ND - 0.13	ND - 0.12	ND - 0.29	ND - 0.23
佐渡関岬	ND - 0.13	ND - 0.058	0.049 - 1.2	ND - 0.096	ND - 0.30	ND - 0.16
隠岐	0.070 - 0.085	0.029 - 0.073	ND - 0.26	0.027 - 0.13	0.12 - 0.76	ND - 0.15
五島	ND - 0.49	ND - 0.031	ND - 0.14	ND - 0.044	ND - 0.12	ND - 0.098

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては ND で示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリより高感度の分析が可能である。

大気降下物

(単位: MBq/km²・3ヶ月)

採取地点	試料採取日	γ 線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	R2/4/2-7/1	(< 0.08)	0.12 ± 0.020	410 ± 3	0.059 ± 0.014	0.10 ± 0.011
	R2/7/1-10/4	(< 0.09)	0.069 ± 0.017	430 ± 2	0.046 ± 0.015	(<0.04)
	R2/10/4-12/25	(< 0.08)	(< 0.05)	420 ± 6	(<0.05)	(<0.03)
	R2/12/25-R3/3/29	(< 0.08)	(< 0.05)	360 ± 3	0.067 ± 0.017	0.034 ± 0.0096
佐渡 関岬	R2/3/31-7/1	(< 0.09)	0.070 ± 0.019	210 ± 2	0.064 ± 0.014	0.058 ± 0.0098
	R2/7/1-9/30	(< 0.2)	0.082 ± 0.022	250 ± 2	0.13 ± 0.020	0.056 ± 0.010
	R2/9/30-12/28	(< 0.1)	(< 0.07)	600 ± 8	0.079 ± 0.016	0.030 ± 0.0091
	R2/12/28-R3/3/31	(< 0.08)	(< 0.06)	230 ± 3	(<0.05)	(<0.04)

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

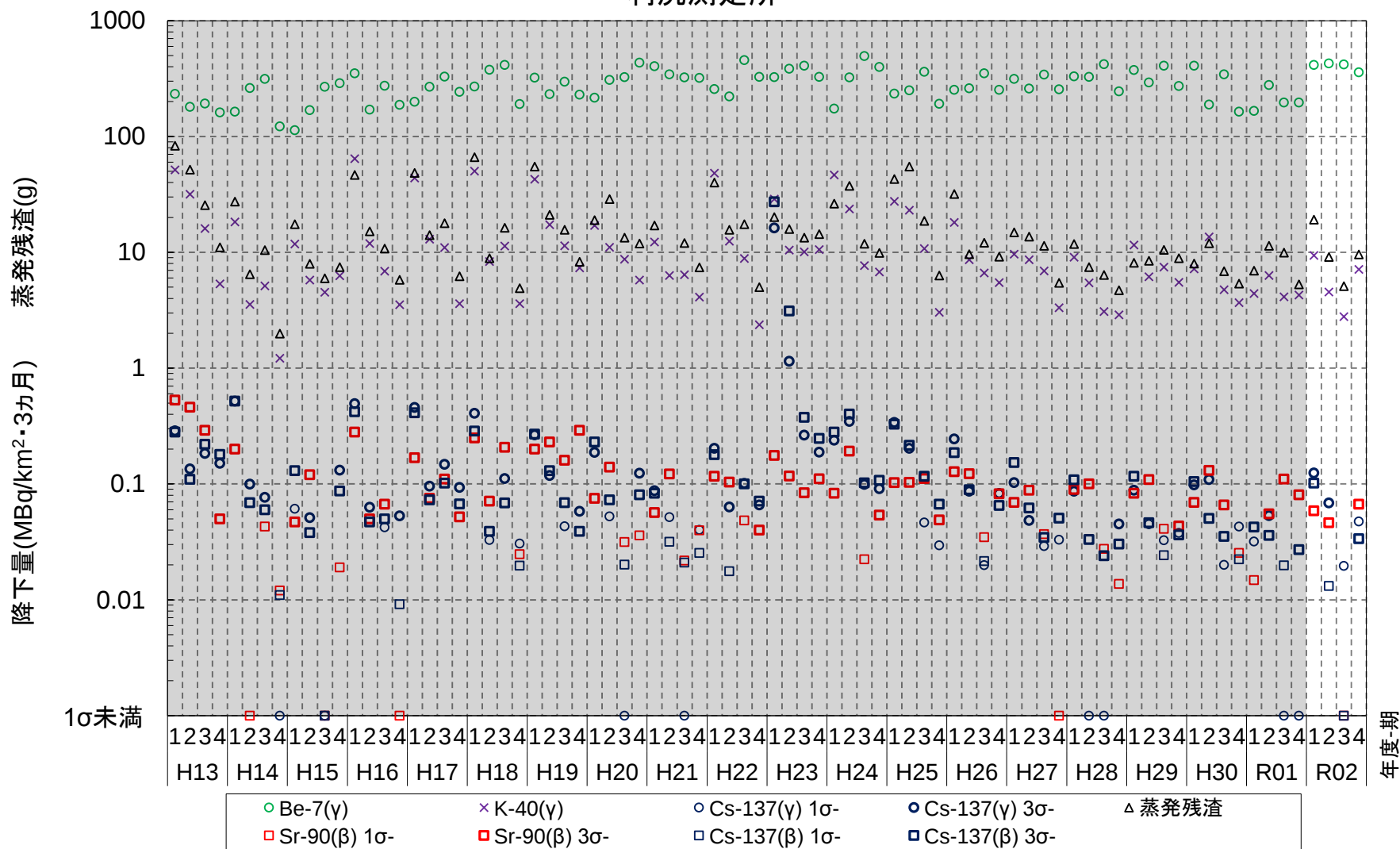
大気降下物

(単位: MBq/km²・3ヶ月)

採取地点	試料採取日	γ 線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
隠岐	R2/3/19-6/26	(< 0.2)	(< 0.07)	150 ± 2	0.070 ± 0.014	0.058 ± 0.011
	R2/6/26-9/28	(< 0.08)	(< 0.06)	130 ± 1	0.085 ± 0.018	0.029 ± 0.0084
	R2/9/28-12/25	(< 0.2)	(< 0.08)	490 ± 8	0.079 ± 0.017	0.031 ± 0.0097
	R2/12/25-R3/3/26	(< 0.2)	0.11 ± 0.028	370 ± 4	0.078 ± 0.018	0.073 ± 0.012
五島	R2/3/10-6/8	(< 0.08)	(< 0.05)	370 ± 3	(<0.04)	0.031 ± 0.0082
	R2/6/8-9/30	(< 0.2)	(< 0.2)	230 ± 3	0.49 ± 0.033	0.028 ± 0.0092
	R2/9/30-12/22	(< 0.09)	(< 0.06)	240 ± 5	(<0.05)	0.029 ± 0.0093
	R2/12/22-R3/3/26	(< 0.07)	(< 0.06)	470 ± 4	(<0.05)	(<0.03)

大気降下物

利尻測定所

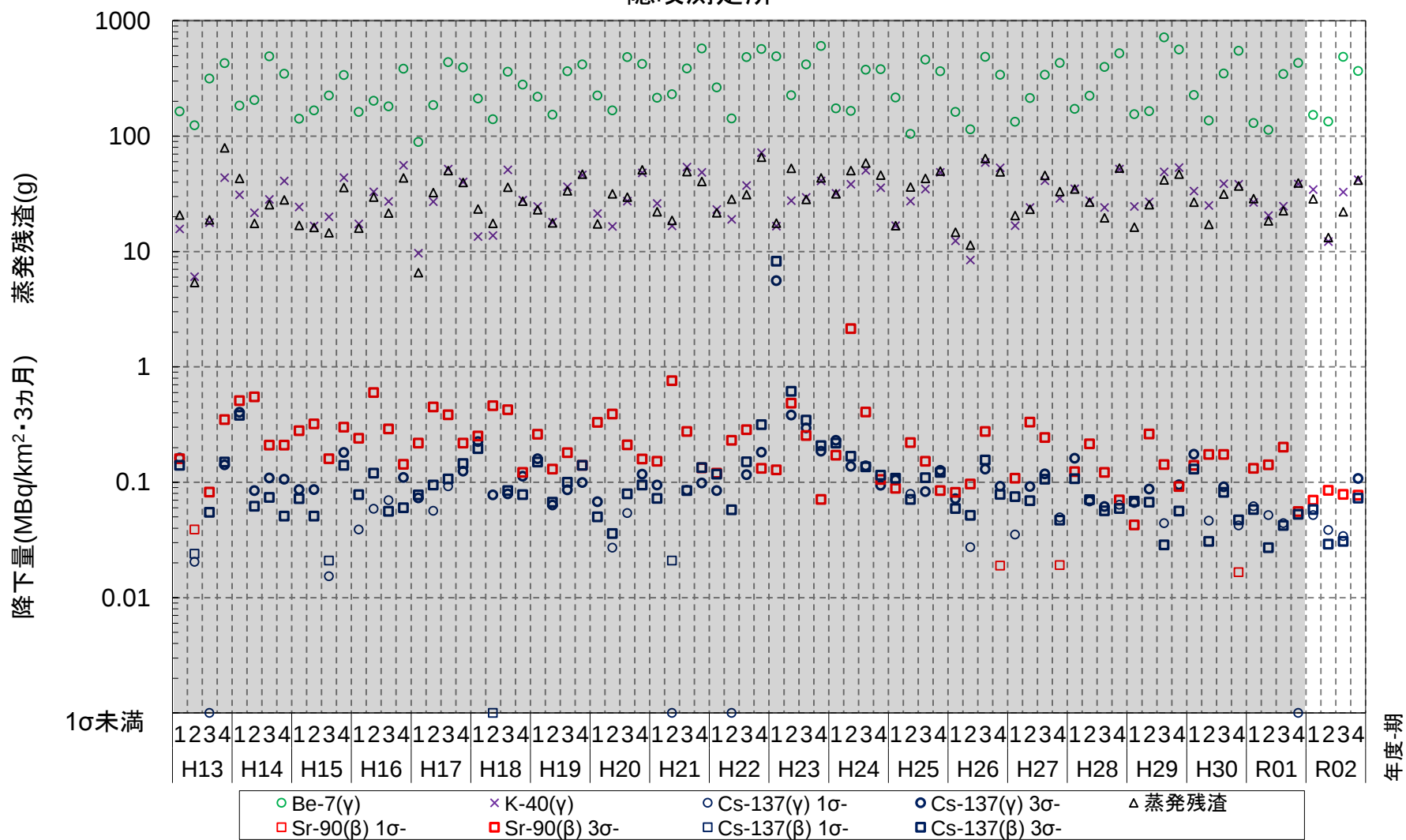


佐渡関岬測定所



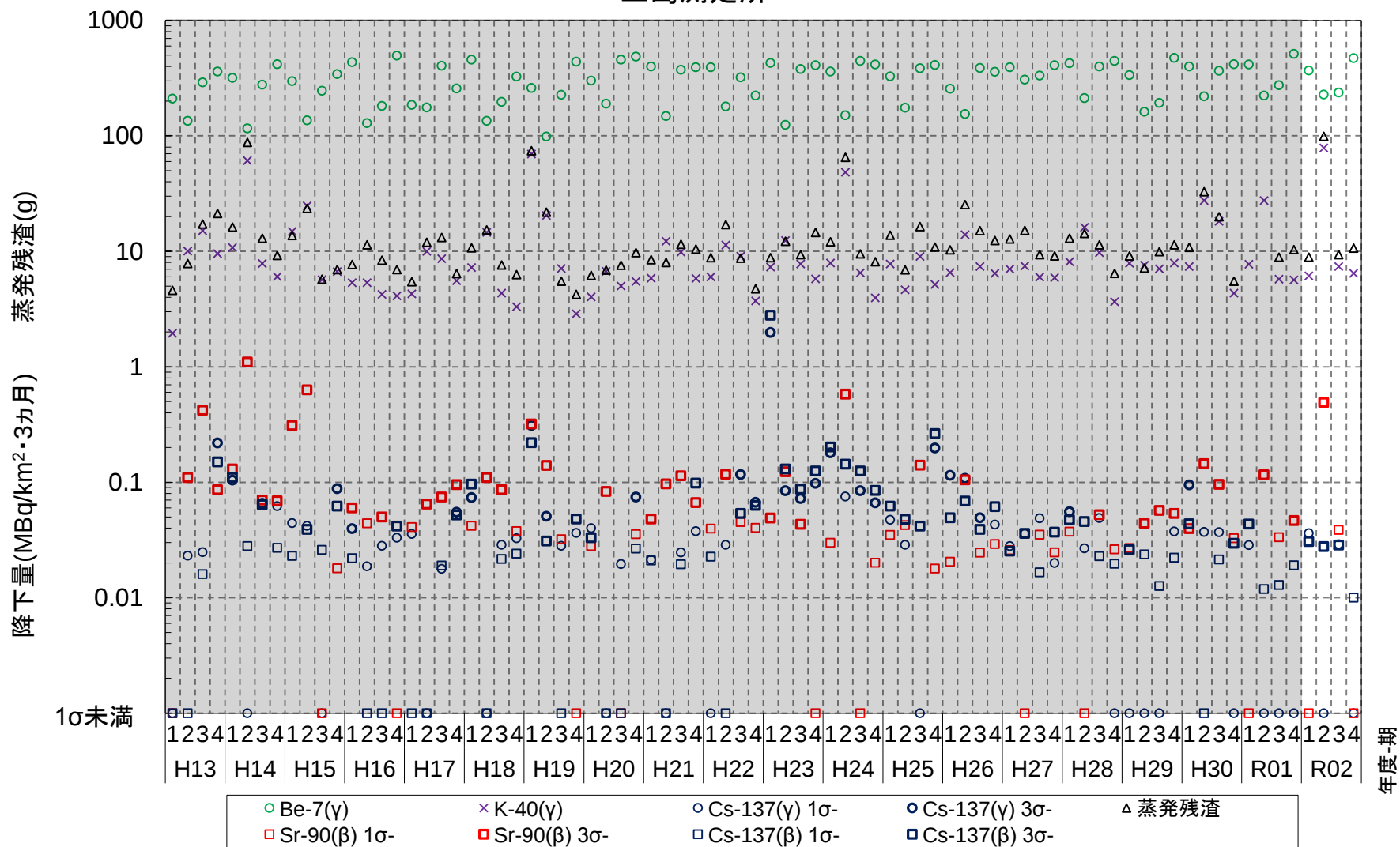
大気降下物

隠岐測定所



大気降下物

五島測定所



土壌

γ線スペクトロメリー

(単位: Bq/kg乾土)

調査地点	採取深度	調査結果			比較対象①			比較対象②		
		令和2年6月 - 9月			平成29年6月 - 9月			平成20年6月 - 9月		
		¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
利尻	上層	ND	5.0 ± 0.31	ND	ND	4.4 ± 0.30	ND	ND	6.8 ± 0.22	ND
	下層	ND	1.5 ± 0.18	ND	ND	1.9 ± 0.21	ND	ND	3.5 ± 0.24	ND
越前岬	上層	ND	1.4 ± 0.24	13 ± 4.0	ND	1.1 ± 0.24	ND	ND	2.6 ± 0.26	ND
	下層	ND	1.1 ± 0.19	ND	ND	0.61 ± 0.18	ND	ND	0.88 ± 0.21	ND
蟠竜湖	上層	ND	1.2 ± 0.22	ND	ND	0.87 ± 0.23	ND	ND	0.99 ± 0.25	ND
	下層	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.69 ± 0.16	ND
檜原	上層	ND	54.1 ± 1.1	ND	ND	53 ± 1.1	ND	ND	63 ± 0.9	ND
	下層	ND	16.6 ± 0.7	ND	ND	15 ± 0.69	ND	ND	14 ± 0.5	ND

上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

土壌

放射化学分析

(単位: Bq/kg乾土)

調査地点	採取深度	調査結果		比較対象①		比較対象②	
		令和2年6月 - 9月		平成29年6月 - 9月		平成20年6月 - 9月	
		⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	上層	1.0 ± 0.12	4.6 ± 0.19	0.84 ± 0.10	4.5 ± 0.20	1.8 ± 0.16	5.9 ± 0.22
	下層	0.43 ± 0.083	1.5 ± 0.12	0.57 ± 0.088	2.1 ± 0.14	0.85 ± 0.12	3.4 ± 0.17
越前岬	上層	0.47 ± 0.091	1.6 ± 0.12	0.48 ± 0.087	1.4 ± 0.12	0.60 ± 0.11	2.9 ± 0.16
	下層	ND	0.53 ± 0.078	0.29 ± 0.072	0.43 ± 0.074	0.43 ± 0.10	1.1 ± 0.10
蟠竜湖	上層	0.36 ± 0.085	0.55 ± 0.075	0.30 ± 0.084	0.54 ± 0.082	0.55 ± 0.098	0.64 ± 0.079
	下層	0.30 ± 0.080	0.30 ± 0.061	ND	0.52 ± 0.079	ND	0.56 ± 0.074
檜原	上層	3.0 ± 0.21	47 ± 0.6	4.7 ± 0.26	46 ± 0.6	9.2 ± 0.35	56 ± 0.7
	下層	1.9 ± 0.18	14 ± 0.3	2.0 ± 0.17	14 ± 0.4	2.1 ± 0.18	14 ± 0.3

上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリより高感度の分析が可能である。

土壌

(単位: Bq/kg乾土)

採取地点	採取深度	試料採取日	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
			^{134}Cs	^{137}Cs	^7Be (参考)	^{90}Sr	^{137}Cs
利尻	上層	R2/7/2	(< 1)	5.0 ± 0.31	(< 20)	1.0 ± 0.12	4.6 ± 0.19
	下層		(< 0.8)	1.5 ± 0.18	(< 20)	0.43 ± 0.083	1.5 ± 0.12
越前岬	上層	R2/7/9	(< 2)	1.4 ± 0.24	13 ± 4.0	0.47 ± 0.091	1.6 ± 0.12
	下層		(< 0.9)	1.1 ± 0.19	(< 10)	(< 0.3)	0.53 ± 0.078
蟠竜湖	上層	R2/8/6	(< 1)	1.2 ± 0.22	(< 9)	0.36 ± 0.085	0.55 ± 0.075
	下層		(< 1)	(< 0.7)	(< 9)	0.30 ± 0.080	0.30 ± 0.061
檮原	上層	R2/7/16	(< 2)	54 ± 1.1	(< 40)	3.0 ± 0.21	47 ± 0.6
	下層		(< 3)	17 ± 0.7	(< 30)	1.9 ± 0.18	14 ± 0.3

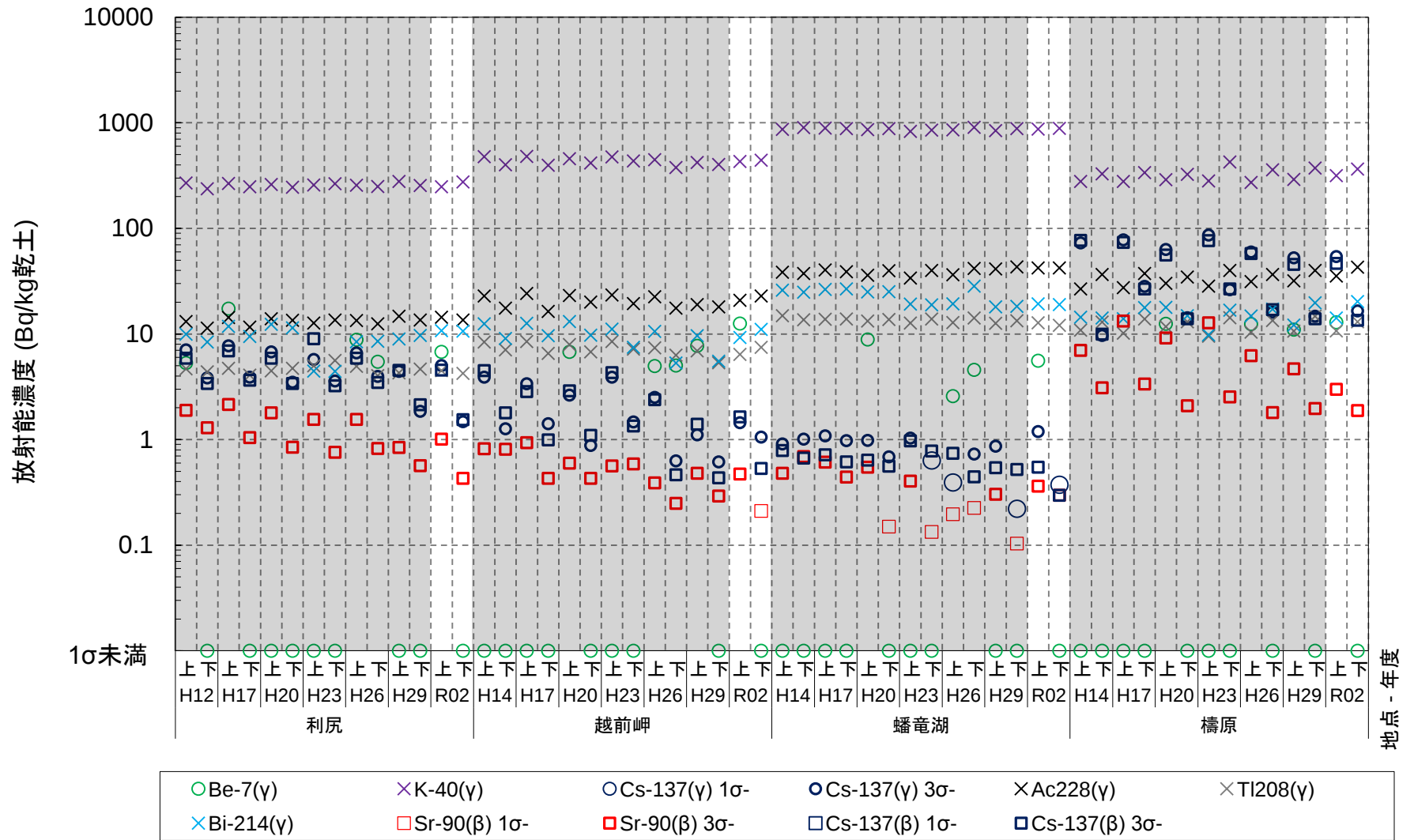
上層は0 - 5 cm、下層は5 - 20 cm

放射化学分析は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs を区別して測定できないため、試料中に ^{134}Cs が含まれている場合、 ^{137}Cs 放射能濃度に ^{134}Cs 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

^7Be は自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

土壤



上(上層)は0 - 5 cm、下(下層)は5 - 20 cm

陸水

γ線スペクトロメリー

(単位:mBq/L)

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	令和2年6月 - 9月			平成29年6月 - 9月			平成20年6月 - 9月		
	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	⁷ Be(参考)
利尻	ND	6.2 ± 0.18	240 ± 4	ND	7.6 ± 0.19	160 ± 3	ND	10 ± 0.2	170 ± 4
越前岬	ND	0.27 ± 0.085	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND	21 ± 1.3	ND	ND	10 ± 1.3	ND	ND	9.8 ± 1.2
檜原	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては ND で示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

⁷Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

放射化学分析

(単位:mBq/L)

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	令和2年6月 - 9月		平成29年6月 - 9月		平成20年6月 - 9月	
	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs	⁹⁰ Sr	¹³⁷ Cs
利尻	4.0 ± 0.19	5.7 ± 0.17	3.9 ± 0.21	6.7 ± 0.18	7.0 ± 0.27	10 ± 0.2
越前岬	0.34 ± 0.074	ND	0.47 ± 0.083	0.21 ± 0.040	0.76 ± 0.10	ND
蟠竜湖	1.4 ± 0.12	ND	1.9 ± 0.14	ND	2.8 ± 0.17	ND
檮原	0.23 ± 0.064	0.14 ± 0.041	0.61 ± 0.082	ND	0.80 ± 0.098	ND

放射化学分析は、¹³⁴Csと¹³⁷Csを区別して測定できないため、試料中に¹³⁴Csが含まれている場合、¹³⁷Cs放射能濃度に¹³⁴Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリーより高感度の分析が可能である。

陸水

(単位:mBq/L)

	試料採取日	γ 線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		^{134}Cs	^{137}Cs	^7Be (参考)	^{90}Sr	^{137}Cs
利尻 オタマリ沼	R2/7/2	(< 0.4)	6.2 ± 0.18	240 ± 4	4.0 ± 0.19	5.7 ± 0.17
越前岬 梅浦川上流	R2/7/9	(< 0.5)	0.27 ± 0.085	(< 5)	0.34 ± 0.074	(< 0.2)
蟠竜湖	R2/8/6	(< 0.4)	(< 0.3)	21 ± 1.3	1.4 ± 0.12	(< 0.2)
檮原 仲洞川	R2/7/16	(< 0.4)	(< 0.3)	(< 5)	0.23 ± 0.064	0.14 ± 0.041

放射化学分析は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs を区別して測定できないため、試料中に ^{134}Cs が含まれている場合、 ^{137}Cs 放射能濃度に ^{134}Cs 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

^7Be は自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

陸水

